

新モノオペラ

人情歌物語

松とお秋



作曲 大中恩

原作 山本周五郎

脚色・歌と口演 岡村喬生

曲師 岡田 澄(クリニット) 半田規子(ピアノ)

2010.12.4 (土) 17:00開場 17:30開演

津田ホール

(JR千歳ヶ谷駅前、都営地下鉄大江戸線・国際競技場駅)

前売り ¥4,000 当日 ¥4,500 (全自由席)

お問い合わせ: 大中 tel/fax 03-3408-6422 電話 03-3209-

主宰: 大中 恩 作品の会

スタッフ: (株)スペース・ゼロ 美術: 村原 肇

照明: 西山秀樹 音響: 加藤寿恭 青白監督: 坪根

山本周五郎の哀愁を心に響く音に託し、独り演じる、日本の歌物語。

松とお秋



大中恩（作曲）

東京音楽学校（現 東京芸大）作曲科卒業、「さばの会」「じゆのむち」主宰。

「さばのむち」は、昭和二十一年ごろのための音楽の創作と発表に尽力する。

一九四〇年、大正座連座委員会は監修。

一九四二年、大正座連座委員会は監修。

一九四一年、第三回秋歌の公演で開催。以降多くの音楽家の努力のもとに

歌謡の作曲家が多々登場。一九六〇年、歌謡連続公演委員会が発行。

合唱曲にて芸術祭の受賞多数。日本重説大賞、美活文化賞。

一九六九年、秋歌連座委員会。

大正座連座委員会。

一九七〇年、秋歌連座委員会は監修。

一九七一年、秋歌連座委員会は監修。

一九七二年、秋歌連座委員会は監修。

一九七三年、秋歌連座委員会は監修。

一九七四年、秋歌連座委員会は監修。

一九七五年、秋歌連座委員会は監修。

一九七六年、秋歌連座委員会は監修。

一九七七年、秋歌連座委員会は監修。

一九七八年、秋歌連座委員会は監修。

一九七九年、秋歌連座委員会は監修。

一九八〇年、秋歌連座委員会は監修。

一九八一年、秋歌連座委員会は監修。

一九八二年、秋歌連座委員会は監修。

一九八三年、秋歌連座委員会は監修。

一九八四年、秋歌連座委員会は監修。

一九八五年、秋歌連座委員会は監修。

一九八六年、秋歌連座委員会は監修。

一九八七年、秋歌連座委員会は監修。

一九八八年、秋歌連座委員会は監修。

一九八九年、秋歌連座委員会は監修。

一九九〇年、秋歌連座委員会は監修。

一九九一年、秋歌連座委員会は監修。

一九九二年、秋歌連座委員会は監修。

一九九三年、秋歌連座委員会は監修。

一九九四年、秋歌連座委員会は監修。

一九九五年、秋歌連座委員会は監修。

一九九六年、秋歌連座委員会は監修。

一九九七年、秋歌連座委員会は監修。

一九九八年、秋歌連座委員会は監修。

一九九九年、秋歌連座委員会は監修。

二〇〇〇年、秋歌連座委員会は監修。

二〇〇一年、秋歌連座委員会は監修。

二〇〇二年、秋歌連座委員会は監修。

二〇〇三年、秋歌連座委員会は監修。

二〇〇四年、秋歌連座委員会は監修。

二〇〇五年、秋歌連座委員会は監修。

二〇〇六年、秋歌連座委員会は監修。

二〇〇七年、秋歌連座委員会は監修。

二〇〇八年、秋歌連座委員会は監修。

二〇〇九年、秋歌連座委員会は監修。

二〇一〇年、秋歌連座委員会は監修。

二〇一一年、秋歌連座委員会は監修。

二〇一二年、秋歌連座委員会は監修。

二〇一三年、秋歌連座委員会は監修。

二〇一四年、秋歌連座委員会は監修。

二〇一五年、秋歌連座委員会は監修。

「日本地図記」、「桜の木は残った」、「青ヶか物語」などと知られる。山梨県生まれ。横浜育ち。東京の音楽の徒弟を経て小説家となる。江戸を舞台にした人情もの、武家ものなど多くの作品を残していく。「梅三十郎」「春ひけ」「つすがれん」などが東洋明監督で映画化され、文部省文化賞も受賞。文部省文化賞、文部省助成金受賞。

原作——「日日平安」（新利文庫）より

「嘘アつかねえ」（序）

「女なんでもものは日日に三度は横に面をははーとやらかへとやうけねえよ。」

漢草の場合は安里台で候が辰をあげる日暮に入火だね。

だが、松のほんとうの名のは？ いつきにもいふ人が多く氣の弱い松の生き方。

山本周五郎の得意とする「下町もの」。

江戸のはずれ端町で春をひとくわ秋。男前のじと村次に轟されつづけているが、

惚れた頃みで離はれない。ついに、村次が同じ頃の若い娘と出来たことを知り、

逆上する。まあ、お秋の運命は？ 社会の底辺にいるめく女と男。

その哀しさ愛しさに寄り添う周五郎の「岡場所」。

新モノオペラ 人情歌物語「松とお秋」について

ひとりの漁者が船から衣装を脱ぎ、音楽の世界を駆けめぐらす。音楽も演劇も歌謡も、この形式で国民オペラを創ろうと、長き一〇〇年の歌劇場で活躍した、日本の音楽が日本の演劇や講談など日本の伝統芸能から発想した、歌舞の両面が、オペラ（モノオペラ）、日本語を活かす曲調を大中恩に依頼。最初は二〇〇〇年12月も、当初は「周五郎の哀愁」としてスタート。費用も安くどんどん公演でも公演できる新しい形式も話題を呼び、上演を重ねることに實績が広がっている。



岡田 渉（クラリネット）

日本芸術大学卒業後、吉澤サウンド、岡田オーディオスナップ、アーヴィング・マーフィー、ヤマハ新人演奏会、読売新人演奏会に出演。
2005年、第三回日本クラリネットコンクール第3位。

半田規子（ピアノ）

桐朋女子高音楽部卒業後を経て桐朋学院大学ピアノ科卒。
卒業後、吉澤サウンド、吉澤音楽教室で吉澤先生に師事。
アーヴィング・マーフィー、ヤマハ新人演奏会に出演。

クラリネットを嗜み、吉澤先生、岡田先生、山本先生、磯田先生、川島先生、廣田先生、吉澤先生を師事。
2004年、2006年に2回のコンサートによる演奏会を開催。

